



碧南ロータリークラブ週報

第3116回例会 令和7年1月22日(水)

- 会長 鈴木 泰博
- 幹事 大竹 密貴
- 会場監督(SAA) 長田 康弘

2024-2025 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100
- 会報委員 牧野勝俊・杉浦邦彦・岡本耕也



● 斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のお弁当

大正館

● 本日のお客様

高齢者デイサービス碧カレッジ 所長 松尾勇氣様

会 長 挨 拶

失礼致します。本日も例会にご出席いただき、ありがとうございます。

大寒という中で、非常に暖かい日がここ数日続いております。インフルエンザやコロナが流行っておりますので、くれぐれも気を付けていただきたいと思います。

年が明けて3週間ほど経ちました。この間に例年のように交通の関係の会議等がいろいろありまして、私どもも出席させていただいておりますので、交通の関係のお話をさせていただきたいと思います。

先日、新美雅浩さんが東京で大きな賞をいただけてみえました。後でご本人からニコボックスでお話があると思います。おめでとうございます。

1月16日に2025年の愛知県交通安全県民大会が開催されました。後ほど、そのお話をさせていただきます。1月17日に令和7年度の愛知県碧南警察署感謝状贈呈式が開催され、碧南RCの多くの会員の方々が感謝状をいただけてみえました。先になります、2月14日に碧南市交通安全市民大会が開催されます。

昨年の交通事故死者数のお話を少しさせていただきます。ワースト1位は東京都で146人



鈴木泰博会長

(+10人)、2位は愛知県で141人(-4人)、3位は千葉県で131人(+4人)、4位は大阪府で127人(-21人)、5位は埼玉県で113人(-9人)ということで、減ったり増えたりしていますけど、同じような人数の方が亡くなられております。大阪府が21人減っていますが、東京都、愛知県、千葉県、大阪府がいつも上位を占めております。因みに碧南市は2名の方が亡くなっております。交通死亡事故をなくすために日々活動しておりますので、ご協力をよろしくお願い致します。

先ほど言った2025年の愛知県交通安全県民運動のお話をさせていただきます。皆さんもよく聞いているかと思いますが、愛知県のスローガンは「ストップ・ザ 交通事故 ～高めようモラル 守ろうルール～」です。サブスローガンは「実践しよう 交通安全スリーS運動」ということで、Stop、Slow、Smartの3つのSを取った形です。

運動重点としては、

- ◆こどもと高齢者の交通事故防止
- ◆歩行者・自転車・特定小型原動機付自転車の交通事故防止
- ◆交通ルールと運転モラルの遵守
- ◆悪質・危険な運転の根絶
- ◆後部座席を含むシートベルト全席着用の徹底

になります。

広報重点としては、

- ◆ただいまと 今日わが家に 咲く笑顔
- ◆スマホより 命の安全 みぎひだり
- ◆自転車は 大人もこどもも ヘルメット

になります。

今年の年間スケジュールとしては、

- ◆春の全国交通安全運動 4月6日(日)～4月15日(火) 10日間
- ◆夏の交通安全県民運動 7月11日(金)～7月20日(日) 10日間
- ◆秋の全国交通安全運動 9月21日(日)～9月30日(火) 10日間
- ◆年末の交通安全県民運動 12月1日(月)～12月10日(水) 10日間

ということで、碧南市もこれに準じて活動を実施していきます。

碧南交通安全協会としても、交通事故をなくすために一生懸命活動を行ってまいりますので、皆様もご協力をよろしくお願い致します。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

今日もよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第7回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ ガバナー事務所より「2025年ロータリー国際大会(カナダ・



大竹密貴幹事

カルガリー) 登録のご案内」が届いております。

- ・ ガバナー事務所より「2025 年国際大会カルガリーハット販売のご案内」が届いております。
- ・ 刈谷ロータリークラブより「刈谷ロータリークラブ 70 年史」が届いております。
- ・ 他クラブの例会変更のお知らせにつきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 1 月 29 日は職場例会になっております。愛生館 特別養護老人ホームひまわりにお集まりいただきますよう、よろしくお願い致します。

委員会報告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 59 名 (内出席免除者 14 名の内出席者 14 名) 出席者 50 名	
出席対象者 50 / 59 名	出席率 84.75%
欠席者 9 名 (病欠者 0 名)	

<ニコボックス>

- 鈴木 泰博君 1 月 17 日、碧南警察署長様から感謝状をいただきました。
- 角谷 信二君 1 月 17 日 (金)、碧南警察署長より感謝状を頂きました。
- 木村 徳雄君 令和 6 年度碧南市民スキー大会が、今週 1 月 25 日、26 日に福井県和泉スキー場で開催します。今回はスノーボード教室もはじめて開催します。26 日が大会です。ロータリーメンバーの方々是非参加をおまちしています。
- 新美 雅浩君 第 65 回交通安全国民運動中央大会で、交通栄誉章「緑十字銀章」を授与されました。
碧南警察署長より感謝状を拝受しました。
- 杉浦 邦彦君 1 月 16 日 (木) は、杉浦栄次さん、岡島晋一さん、長田康弘さんに大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 小林 清彦君 本日の卓話講師 高齢者デイサービス碧カレッジ 所長 松尾勇氣さんをご紹介致します。

卓話

「閉じこもり高齢者の現状と社会参加促進に向けた碧カレッジでの取り組み」

高齢者デイサービス碧カレッジ 所長 松尾勇氣様



松尾勇氣様

只今ご紹介に与りました高齢者デイサービス碧カレッジ所長

の松尾と申します。本日はこのような貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございます。長年、社会で活躍されている皆様の前でお話しさせていただくということで、とても緊張しておりますが、精一杯お話しさせていただきますので、よろしくお願い致します。

本日は介護現場で働く私の目線から見た高齢者の閉じこもりに関する事、社会参加に向けた碧カレッジで行っている取り組みについてのお話をさせていただきたいと思っております。至らない点も多々あるかと思いますが、最後までよろしくお願い致します。

まず、本日の内容ですが、大きく3つに分かれております。1つ目が日本の高齢化と介護保険制度について、2つ目が閉じこもり高齢者の現状について、3つ目が碧カレッジの取り組みについてです。では、早速始めさせていただきます。

皆様もご存知のことと思いますが、日本の高齢化の現状について改めて振り返ってみたいと思っております。こちらの表ですが、2070年までの人口動態を表したものになっております。縦の棒グラフが日本の総人口を表してありまして、棒グラフの中の色分けはそれぞれの年齢層を表してあります。上から青色が0歳から14歳、薄いオレンジが15歳から64歳、緑が65歳から74歳、濃いオレンジが75歳から84歳、その下が85歳以上、そして95歳以上と続いております。この濃いオレンジの年齢層の方が介護保険の認定率が一番高くなってあります。また、横に走っている赤いラインですが、こちらが高齢化率になってあります。すでに日本の人口は減少を始めてありまして、高齢化は今後も進むという状況になってあります。

こうした高齢化が進んでいくという社会の中でスタートしたのが、介護保険制度になります。要介護高齢者の増加、家族介護の限界、財政の悪化という背景がありまして、2000年にスタートしてあります。介護保険の特徴になりますが、それまでにも増して、自立支援や利用者本位、利用される高齢者の方の尊厳を保持するということが重要視されました。自立支援というのは、単に介護するだけではなくて、高齢者の方の残っている能力を活かして、できることはやっただくという視点の考え方です。利用者本位というのは、多様なサービスの中から高齢者の方が望むサービスを受けられるように選択できるというものです。また、財源に関しても社会保険方式を取り入れて、国だけでなく国民も保険料を払うことによってサービスが受けられるようになりました。

そして、介護保険制度の現状になります。介護保険は3年に1度制度の改定がありますので、それに伴ってサービスの幅や介護技術がどんどんと向上してきました。一方で予測を上回るスピードで高齢者が増加したことによっての介護費が増大、働き手不足などが現在の課題となっております。

続きまして、碧南市についてですが、昨年の12月時点でのデータでは、高齢化率が23.9%、要介護認定率が16.7%ということで、全国の平均よりも低い水準になってあります。これはトヨタ系の事業所があるということで、働き手が多く入ってきていることが要因になっていると思います。今後の予測値ですが、日本の人口動態と同じように人口は減っていき、高齢化率は上昇していくと予測されてあります。

次に閉じこもり高齢者の現状についてお話しさせていただきます。まず、「閉じこもり」という言葉の定義からお伝えしたいと思います。閉じこもりというのは、外出の頻度が週に1回未満の状態を指します。また、その一歩手前の状態として、「閉じこもり傾向」という言葉

もあります。こちらは外出頻度が1日に1回未満の状態を指します。私たちにとって自宅から一歩外に出るということは、普段から何気なく行っていることだと思いますが、高齢者の方は様々な要因で簡単に外出することが難しくなっているという現状があります。

その要因は大きく分けて3つございます。1つ目が身体的要因で、体力や筋力の減少、認知症の進行などを指します。2つ目が心理的要因で、外出への自信が喪失、楽しみや生きがいの喪失、転ぶことへの恐怖心などを指します。3つ目が社会・環境的要因で、移動手段が限られる、家庭内での役割の減少、友人や知人との交流頻度の減少などを指します。これらの要因が様々に影響しあって、悪循環を引き起こしております。このような状態に陥り、精神的にも身体的にも機能が低下してしまう状態を「フレイル」と呼びます。閉じこもりはフレイルを引き起こしていく大きな要因となっております。一方で、社会参加がもたらす心身の健康維持や孤立感の解消は、多くの研究で明らかになっております。

このような閉じこもりの現状を踏まえて、碧カレッジで行っている取り組みをご紹介させていただきます。まず、私たちはデイサービスという介護の事業所になりますが、デイサービスというのは、一般的には利用者の方に通っていただき、必要な介護を提供する場所となっております。例えば、施設の送迎車で朝来て、利用中の時間に入浴サービスを受けたり、その他の必要な介護サービスを受けたり、お食事を食べて夕方まで過ごして送迎車で帰っていくというのが、一般的なデイサービスとなります。しかし、碧カレッジでは、比較的元気な高齢者の方を対象としております。基準としては、移動や排泄が自立している方となります。そのような元気な方が来られますので、入浴等の身体介護はありません。ですので、介護の予防の要素が強い事業所と言えます。

碧カレッジに通っていただいている利用者の方に対して、「フレ活」というオリジナルの名称を付けた活動を提供しております。フレ活の「フレ」には様々な意味合いが込められております。1つ目が他の方と交流をするという「ふれあい」のふれ、2つ目が様々な新しいことに挑戦していただきたいという「フレッシュな体験」のフレ、3つ目が「フレイル予防」のフレ、これらを通して利用者の方を「フレイフレー」と応援する活動のことを指しております。

この活動は他者との交流や新しい体験を通じて、心身の健康を維持することを目的としております。具体的には、陶芸やピザ作りといった新しい挑戦の機会を提供したり、体操を取り入れることで脳や身体の活性化を図っております。また、子ども園や放課後デイサービスと同じ複合施設内にあるため、高齢者の方と子どもたちが日常的に交流する機会も多く、世代間交流を通じた心の充実にも力を入れております。

さらに就労支援プロジェクトにも取り組んでおりまして、高齢者の方が地域の企業から提供された作業を行うことで、自分の役割を持つ充実感や社会とのつながりを感じていただける環境を整えております。こうした取り組みを通じて、碧カレッジは高齢者の方が地域社会の一員として生き生きと暮らせるように支援しております。

今回、このような機会をいただいて、改めて高齢者の方の社会参加の重要性について考える機会をいただきました。私たちは今後も役割を持つ喜びや社会とのつながりを感じられるような支援を続けてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

次回例会案内

令和7年2月5日（水）クラブフォーラム

『私が思う「生活者としての外国人住民への日本語教育」』

一般社団法人オクシモロンズ 代表理事 清水きよ恵氏